

第5 市民意向の把握

1 5ヵ年(2005年～2009年)の市民意識調査による各施策の相対評価

これまで5回(2005年1月・2006年4月・2007年5月・2008年5月・2009年5月)にわたって実施した市民意識調査の結果について、次の手法により各施策を相対的に評価しました。

相対評価にあたっては、「満足している」という割合(ポジティブな要素)だけに焦点を当てるだけでなく、「不満である」というネガティブな要素についても加味することとしました。

① ポイントの付け方

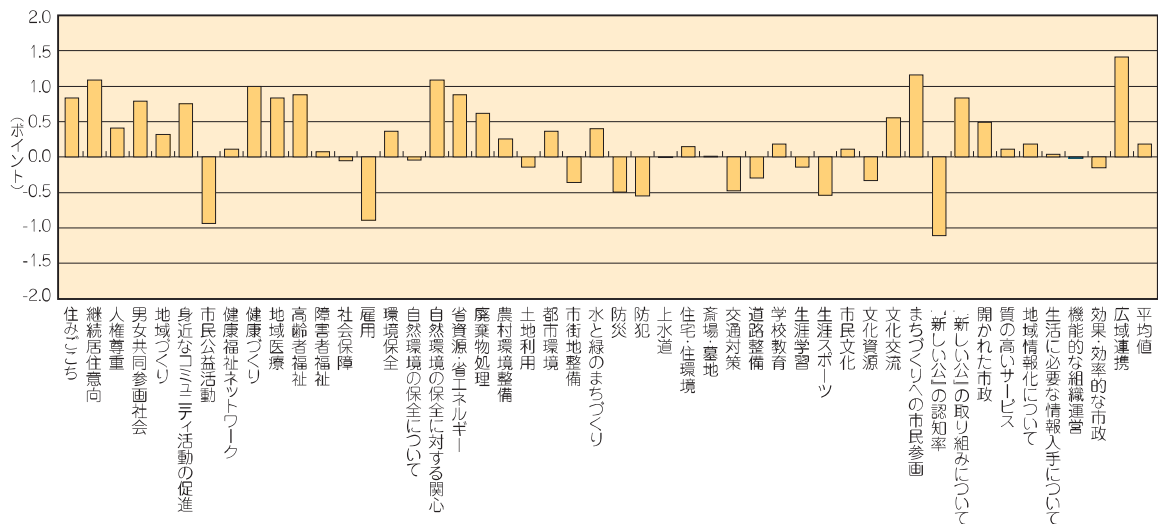
満足度等	ポイント
十分満足している(そう思う)等	2
一応満足している(どちらかといえばそう思う)等	1
やや不満である(どちらかといえばそう思わない)等	-1
非常に不満である(そう思わない)等	-2

② 平均ポイントの算出方法

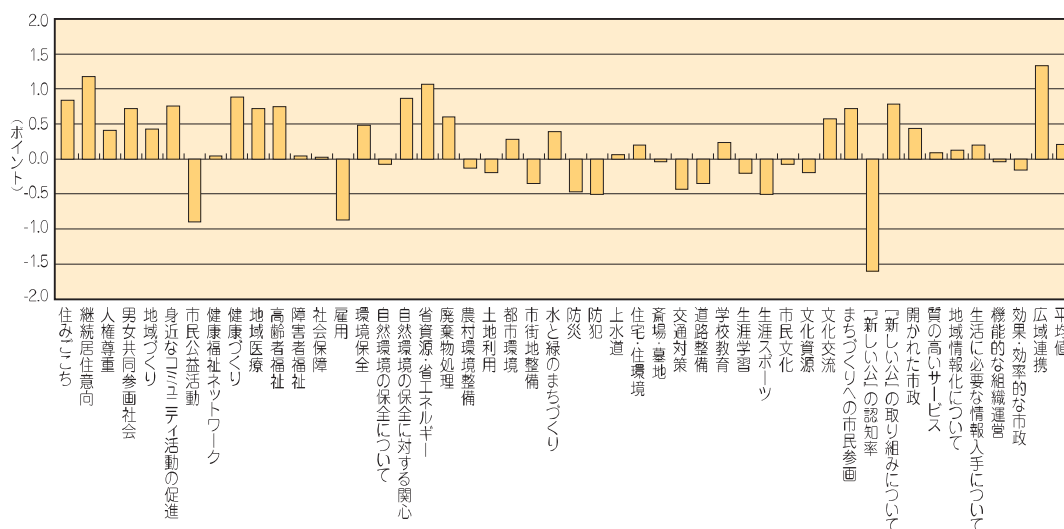
1人1項目あたりのポイント分析を+2～-2の範囲として、このポイント全体の平均を算出しました。算出した平均ポイントは、+2に近いほど満足(施策の目標が達成されつつある)であることを表し、-2に近いほど不満(施策の目標達成に及ばない)であることを表しています。

$$\text{平均ポイント} = \frac{\text{「満足」} \times 2 + \text{「一応満足」} \times 1 + \text{「やや不満」} \times (-1) + \text{「非常に不満」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

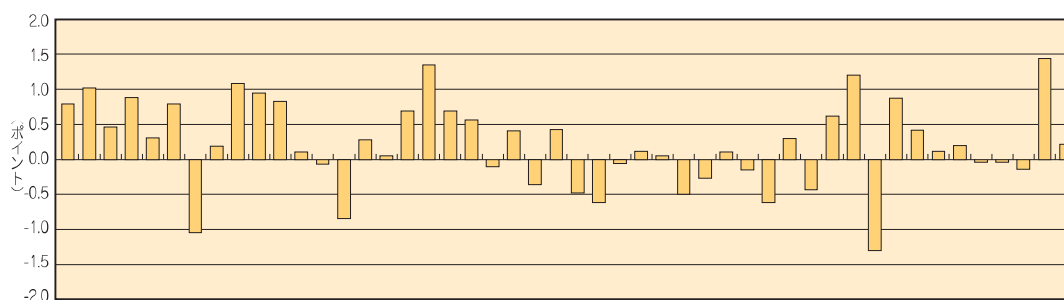
[全体]



[男性]



[女性]



施策別の相対評価では、男女での差はほとんどみられません。

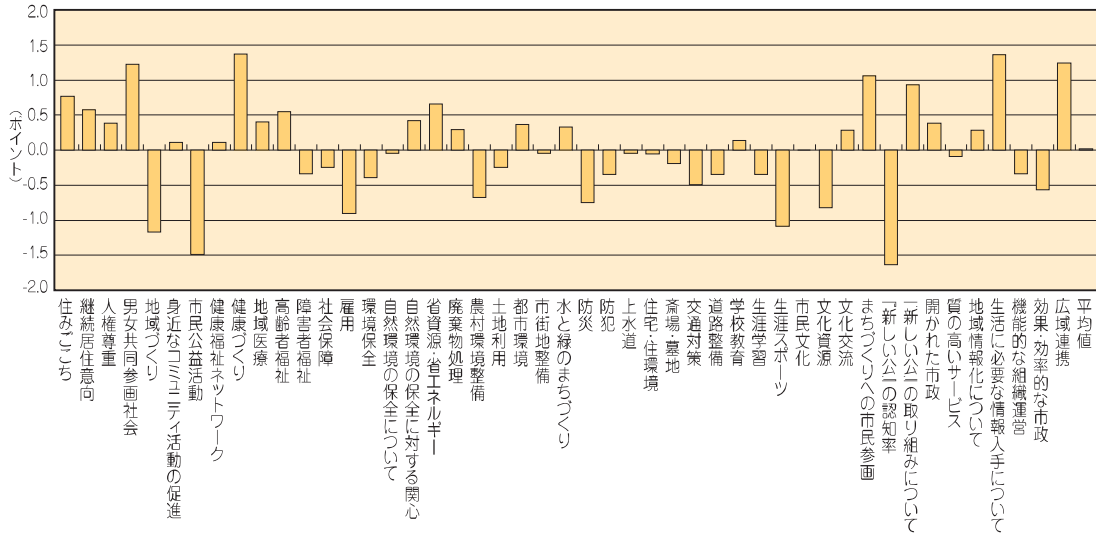
男女ともに「広域連携に対する意識」「まちづくりへの市民参画に対する意識」「省資源・省エネルギーに対する意識」が高くなっています。

反対に、「『新しい公』の認知率」「市民公益活動の参加経験」「雇用環境に対する満足度」が低くなっていますが、女性では「市民公益活動の参加経験」が「雇用に対する満足度」よりも低くなっています。

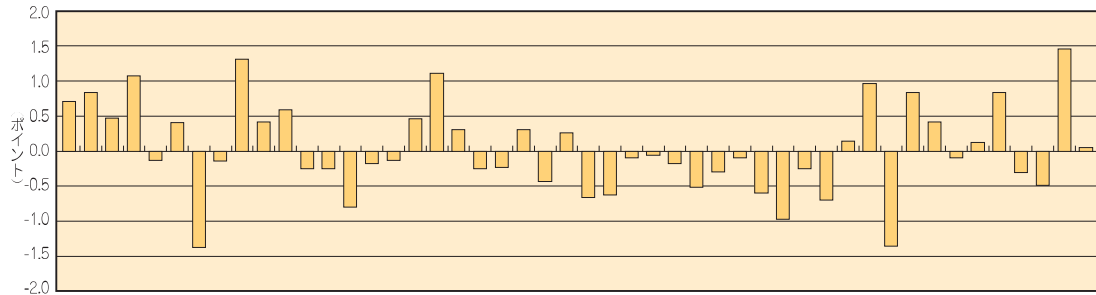
なお、次の4項目で、男女の値が大きく異なります。

- ① 男性よりも女性の方が、男女の固定的な役割分担に否定的である。
- ② 男性よりも女性の方が、市内の貴重な自然環境(田園環境や里山、森林等を含む)が保全されていると感じている。
- ③ 男性よりも女性の方が、買い物や食事の際に、圧倒的に市内産の農産物を意識している。
- ④ 女性よりも男性の方が、小中学校の教育環境に満足している。
- ⑤ 男性よりも女性の方が、圧倒的に文化や芸術を鑑賞する機会が多い。
- ⑥ 女性よりも男性の方が、圧倒的にパソコンや携帯電話を利用して、日々の生活に必要な情報を入手している。

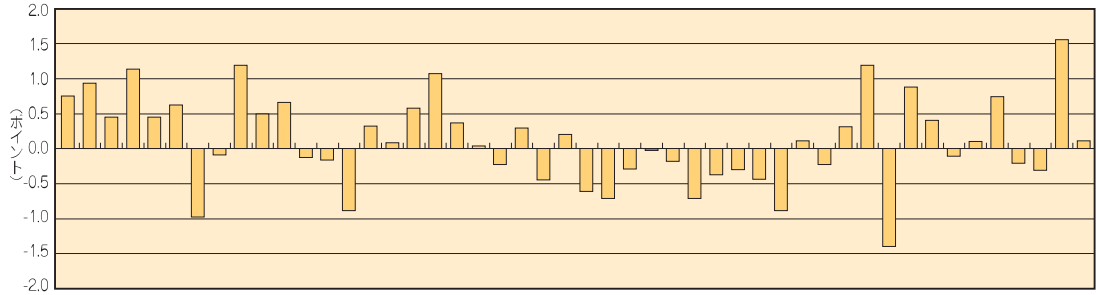
[20~29歳]



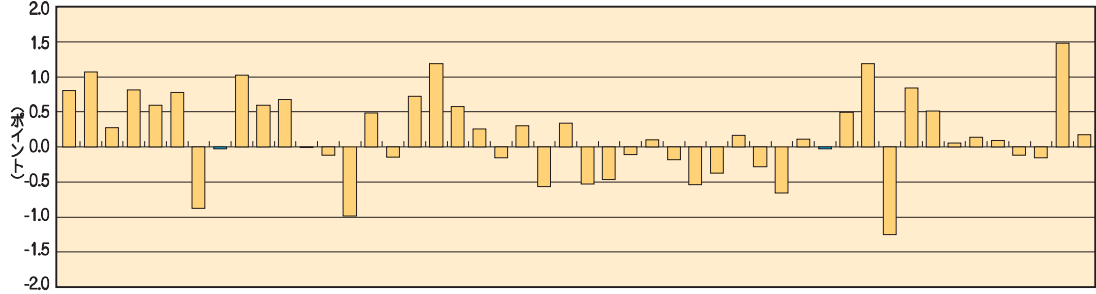
[30~39歳]



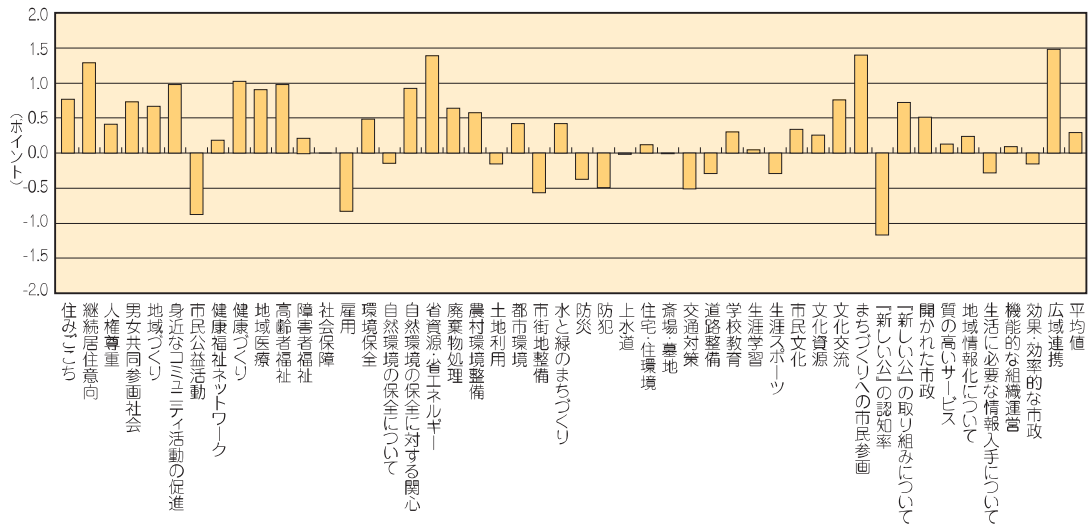
[40~49歳]



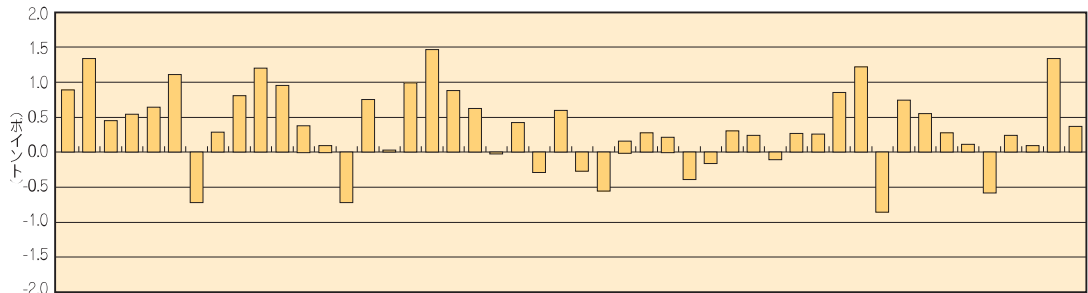
[50~59歳]



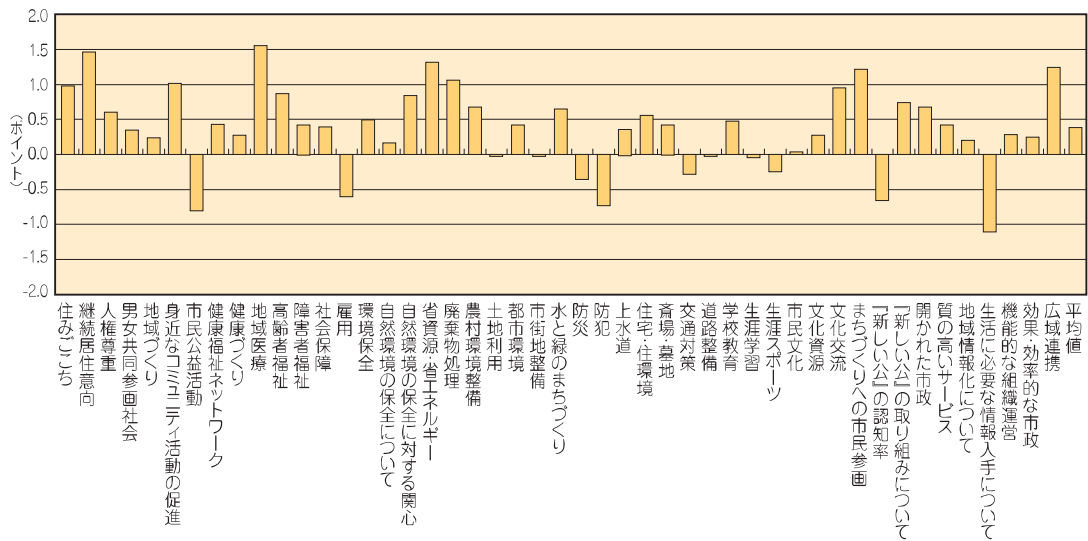
[60~64歳]



[65~74歳]



[75歳以上]



全年齢ともに、「広域連携に対する意識」「まちづくりへの市民参画に対する意識」が高くなっています。

反対に、「市民公益活動の参加経験」「雇用環境に対する満足度」が低くなっています。

20歳代では、「男女の固定的な役割分担に否定的な人」と「パソコンや携帯電話を利用して、日々の生活に必要な情報を入手している人」が圧倒的に多くなっています。

反対に「地域づくりへの参加経験」が圧倒的に低く、「隣近所との付き合いや交流がある」と考えている人も圧倒的に少なくなっています。

その他、次の項目で低い結果となっています。

- ① 買い物や食事の際に、市内産の農産物を意識している。
- ② 地震等の災害に対し備えを行っている。
- ③ 週に1日以上スポーツに取り組んでいる。
- ④ 名張市の歴史に対する認知率
- ⑤ 『新しい公』の認知率

30歳代では「パソコンや携帯電話を利用して、日々の生活に必要な情報を入手している人」が多く、反対に次の項目で低い結果となっています。

- ① 地震等の災害に対し備えを行っている。
- ② 生活の中で犯罪に対する不安感はない。
- ③ 週に1日以上スポーツに取り組んでいる。
- ④ 名張市の歴史に対する認知率
- ⑤ 『新しい公』の認知率

40歳代では「自分は健康であると思っている人」が多く、反対に『新しい公』の認知率は低くなっています。

50～64歳では、全体平均と比較して目立った違いはありませんでした。

65～74歳では「パソコンや携帯電話を利用して、日々の生活に必要な情報を入手している人」が少なくなっています。

75歳以上では、次の項目で高くなっています。

- ① 隣近所との付き合いや交流がある。
- ② かかりつけの医者や病院を決めている。
- ③ 日常生活で省資源・省エネルギーを心がけている。
- ④ 市内のごみ処理は適切に行われていると思う。
- ⑤ 名張の文化を広く市外に向けて発信したい。

反対に「パソコンや携帯電話を利用して、日々の生活に必要な情報を入手している人」は圧倒的に少なくなっています。

2 市長への手紙(2004年度～2008年度)による施策体系別件数

過去5年間に市長への手紙に寄せられた意見を体系別に分類した結果、「2-2-3 廃棄物処理」が93件で最も多く、次に「3-4-1 交通対策」(76件)、「3-4-2 道路整備」(73件)が多く、その後に「5-2-1 質の高いサービス」(72件)、「4-1-1 学校教育」(69件)と続いています。

施策	2004	2005	2006	2007	2008	合計	主な内容
1-1-1 人権尊重	1	0	1	0	1	3	
1-1-2 男女共同参画社会	1	1	0	0	0	2	
1-2-1 地域づくり	5	1	2	0	5	13	
1-2-2 市民活動	0	0	3	1	0	4	・ボランティア活動
1-2-3 コミュニティの元気づくり	0	0	0	0	1	1	
1-3-1 健康福祉ネットワーク	8	14	5	0	5	32	・地域福祉計画 ・地域福祉推進本部の活動計画
1-4-1 健康づくり	6	3	1	1	1	12	
1-4-2 地域医療	9	11	11	13	3	47	・市立病院小児科 ・市立病院小児科(救急)
1-5-1 高齢者福祉	8	6	15	1	4	34	
1-5-2 障害者福祉	11	3	5	5	8	32	・精神障害者医療助成
1-5-3 子育て支援	4	11	7	5	1	28	
1-5-4 社会保障	0	0	4	3	2	9	
1-5-5 雇用	1	0	1	2	3	7	
2-1-1 環境保全	6	10	14	13	2	45	・空き地の雑草 ・動物の避妊手術費用 ・近所の騒音 ・放置自動車
2-1-2 自然環境	1	2	1	0	0	4	
2-2-1 省資源・省エネルギー	2	1	0	0	0	3	
2-2-2 ごみの減量化とリサイクル	2	3	5	4	4	18	・生ごみの堆肥化
2-2-3 廃棄物処理	11	14	11	35	22	93	・ごみの収集場所 ・新清掃工場建設 ・ごみ有料化 ・収集方式(戸別・ステーション)
2-3-1 農村環境整備	2	2	0	2	3	9	
2-3-2 森林環境整備	0	0	1	0	1	2	
3-1-1 土地利用	0	0	3	2	0	5	
3-1-2 都市環境	3	6	0	0	0	9	・河川堤防の整備
3-1-3 市街地整備	19	19	2	2	13	55	・市民交流センター ・まちなか再生プラン ・せせらぎ施設 ・桔梗が丘10号公園

施策	2004	2005	2006	2007	2008	合計	主な内容
3-1-4 水と緑のまちづくり	2	3	9	7	2	23	・公園の整備
3-2-1 防災	10	7	4	6	0	27	・消防署新庁舎 ・防災対策 ・地震発生時の対応
3-2-2 消防・救急	0	2	1	0	0	3	
3-2-3 防犯	2	3	4	3	10	22	・街路灯の設置 ・防犯灯の設置
3-3-1 下水道等	4	0	8	3	3	18	・下水道料金
3-3-2 上水道	0	0	1	0	1	2	
3-3-3 住宅・住環境	2	2	3	3	5	15	
3-3-4 斎場・墓地	5	1	3	1	2	12	・東山墓園の抽選方法
3-4-1 交通対策	10	13	22	17	14	76	・ナッキー号 ・路上駐車 ・廃止路線バス
3-4-2 道路整備	14	16	18	13	12	73	・歩道整備 ・街路樹の伐採 ・道路の補修 ・道路の草刈り
3-5-1 都市産業	7	2	0	0	0	9	・滝之原工業団地
3-5-2 観光	23	5	4	6	2	40	・ちょいぶら名張 ・観光地の公衆トイレ
4-1-1 学校教育	12	6	22	9	20	69	・中学校給食 ・授業量の確保 ・スクールガード
4-1-2 青少年健全育成	2	0	0	0	0	2	
4-2-1 生涯学習	4	6	3	0	0	13	・図書館でのCDの貸出
4-2-2 生涯スポーツ	11	6	8	5	2	32	・スポーツプラザ ・武道交流館いきいき
4-3-1 市民文化	1	2	4	2	0	9	・映画館
4-3-2 文化資源	4	2	1	0	2	9	
4-3-3 文化交流	1	0	0	0	0	1	
5-1-1 市民参画	0	2	1	1	2	6	・住民投票条例
5-1-2 開かれた市政	14	10	20	10	0	54	・市民情報交流センターについての公表
5-2-1 質の高いサービス	17	15	10	14	16	72	・職員の対応など
5-2-2 地域情報化	0	2	1	3	6	12	・関西圏デジタル化放送受信
5-3-1 戦略的な都市経営	11	10	0	0	7	28	・総合計画
5-3-2 効果・効率的な市政	16	6	16	15	3	56	・学校給食の民営化 ・職員の再任用制度

施策	2004	2005	2006	2007	2008	合計	主な内容
5-3-3 持続可能な財政運営	1	5	0	3	17	26	
5-4-1 広域連携	3	1	1	0	0	5	・美杉村太郎生との合併
その他			6	6	8	20	
合計	276	234	262	216	213	1,201	

3 前期基本計画の総括

名張市自治基本条例を制定し、市民と行政の役割分担を明確にするとともに、パブリックコメント等により政策の形成過程から市民の参画を位置付け取り組んできたことにより、「まちづくりへの市民参画」、「情報提供や広聴制度」に、また、このほか「日常生活で省資源・省エネルギー」、「ごみの処理の適切化」に一定の評価を得ています。

一方で、依然として施策指標の達成状況が低いもの、市民の評価が低い項目について、施策ごとに課題として抽出します。

(1) 互いに認めあい支えあう、健康で安心できる暮らし

- 地域づくりなどの市民公益活動では、各地域でまちづくり活動が活発化する一方で、「地域づくり活動に参加したことがある市民」は、相対評価で40歳以上はプラスとなっていますが、20歳・30歳代はマイナスとなっており、活動者の高齢化が進行していることから、支援制度の充実や人材育成を進めることが急務となっています。
- 雇用では、相対評価が各年代ともマイナスとなっており、わが国経済の先行きの不安感が顕著に現れた結果であると考えられますが、今後も積極的な雇用安定施策を講じる必要があります。

(2) 美しい自然に包まれた、憩いと潤いのある暮らし

- 自然環境では、「自然環境の保全に対する市民の関心」が非常に高いことから、「自然環境がよく保全されていると感じている市民」は少ない結果となり、一層の周辺環境と調和する計画的な土地利用を進める必要があります。
- 農村環境整備では、特に農業従事者の高齢化や後継者不足による農地の耕作放棄地が増加していることから担い手の育成が必要となっています。

(3) 人が行き交い活力あふれる、安全で快適な暮らし

- 土地利用では、「秩序ある土地利用が行われていると感じる市民」は少なく、今後、地域の特性を生かした地区別構想の策定を視野に入れ土地利用を進める必要があります。
- 市街地整備では、「中心市街地に魅力があると感じる市民」は少なく、引き続き『名張の顔』にふさわしい都市空間の形成が必要となっています。

- 防災では、「地震等の災害への備えをしている市民」が少なく、市民の防災意識の高揚を図るための情報提供や自主防災体制の充実・強化に取り組む必要があります。
- 防犯では、「犯罪に対して不安感を持っている市民」は多く、昨今の凶悪犯罪事例等が影響していることと推察されますが、引き続き安全で安心して暮らすことのできる明るい社会の創造を目指して取り組む必要があります。
- 交通対策では、「公共交通など市内の交通環境に満足している市民」は少なく、公共交通機関であるバスの運行回数、料金体系等に起因するものと推察されることから、改善策の検討及び地域の実情に合った公共交通システムのあり方について検討が必要となっています。
- 道路整備では、「市内の道路整備が進み、移動しやすくなったと感じている市民」は少なく、道路維持補修に対する市民の思いが数値の低い原因の一つと推察されることから、特に生活道路では、維持補修や安全対策に重点をおいた整備が必要となっています。

(4) 心豊かな教育と文化に包まれた、ゆとりある暮らし

- 生涯学習及び生涯スポーツでは、相対評価が年齢が若くなるにつれてマイナスが進む傾向にあることから、若年層の参加も考慮した機会創出が必要となっています。
- 文化資源では、名張の歴史テスト(5問出題)で4問以上正解した市民は少なく、昭和の時代に関西圏域のベッドタウンとして人口が急増したことが原因の一つと推察されますが、市民が誇れる「名張」の実現に向けて引き続き取り組む必要があります。

(5) 新しい時代を拓く自立と協働による地域経営

- 地域自治では、地域づくり組織やNPO等のまちづくりや市民公益活動が活発化する一方で、「新しい公」の言葉を知る市民は非常に少ないことから、「新しい公」の形成はもとより、「新しい公」の認知度アップについても積極的に取り組む必要があります。
- 効果・効率的な市政運営では、行財政改革をはじめとする多くの事務事業の見直しに取り組み、効果・効率的な市政運営を目指してきましたが、依然として市民の評価は低く、民間の経営手法や民間活力の導入等により質の高い行政運営に取り組む必要があります。

NABARI

